

令和元年度第1回川西町認知症初期集中支援チーム検討委員会 議 事 要 旨	
日 時	令和元年10月25日（金） 午後2時00分～午後3時00分
場 所	川西町役場 2階 202会議室
出席者	別紙名簿参照
次 第	1 開会あいさつ 2 議事 （1）事例報告 （2）認知症に関する総合相談の状況について （3）認知症初期集中支援チームの活動について <意見交換>
資 料	○次第 ○川西町認知症総合支援事業実施要綱 ○川西町認知症初期集中支援チーム検討委員会・チーム員名簿 ○資料1 川西町認知症初期集中支援チーム会議録 ○資料2 川西町地域包括支援センター認知症に関する総合相談状況 ○座席表
議 事 録	
事務局	<p>1 開会あいさつ</p> <p>本日は、お忙しいなか、また、雨でお足元が悪いなかご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>ただいまより、令和元年度第1回川西町認知症初期集中支援チーム検討委員会を開催いたします。</p> <p>まず、はじめに、お手元の資料の確認をお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本日の次第</li> <li>● 川西町認知症総合支援事業実施要綱</li> <li>● 川西町認知症初期集中支援チーム検討委員会・チーム員名簿</li> <li>● 資料1 川西町初期集中支援チーム会議録（ホッチキス止め）</li> <li>● 資料2 川西町地域包括支援センター認知症に関する総合相談状況</li> <li>● 座席表</li> </ul> <p>です。</p>

## 2 委員紹介

次に、本日出席の検討委員会委員のご紹介をさせていただきます。

まず、本検討委員会の委員長であります一般財団法人信貴山病院  
ハートランドしぎさん認知症サポート医の田村様です。

(田村委員)

田村です。よろしくお願いいたします。

(事務局)

続きまして、窓側の方から一般財団法人信貴山病院ハートランド  
しぎさん認知症認定看護師の青川様です。

(青川委員)

青川です。よろしくお願いいたします。

(事務局)

奈良県中和保健所保健予防課長の田中様です。

(田中委員)

田中でございます。よろしくお願いいたします。

(事務局)

川西町保健センター保健師の野村様です。

(野村委員)

野村です。よろしくお願いいたします。

(事務局)

続きまして、川西町社会福祉協議会社会福祉士の米田様です。

(米田委員)

米田です。よろしくお願いいたします。

(事務局)

同じく介護支援専門員の中尾様です。

(中尾委員)

中尾です。よろしくお願いいたします。

(事務局)

川西町地域包括支援センター保健師の湯浅様です。

(湯浅委員)

湯浅です。よろしくお願いいたします。

(事務局)

なお、本日、訪問看護ステーションデューン櫃原看護師の宮川様  
は、欠席と伺っております。

次に、事務局としまして、長寿介護課課長補佐の栗林です。

(栗林課長補佐)

栗林です。よろしくお願いいたします。

	<p>(事務局) 長寿介護課主任の河田です。</p> <p>(河田) 河田です。よろしくお願いいたします。</p> <p>(事務局) そして、本日の進行をさせていただいております長寿介護課課長の岡田と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。</p> <p>この検討委員会は、川西町認知症総合支援事業実施要綱第12条の規定にもとづきまして、支援チームの活動状況に関する事、認知症に関する関係機関との連携に関する事、その他支援チームの活動について必要な事項に関する事について、皆様に検討していただくものとなっています。</p> <p>今回は、支援チームの事例報告と、地域包括支援センターにおけます認知症に関する総合相談状況から分析されます課題につきまして、今後支援チームがどのように取り組むべきかについて、具体的に検討していただける機会になればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本会議の内容は、議事録として記録するとともに、個人情報を含みます事例報告を除いた部分につきましては、川西町ホームページにおいて公開します。このため、会議の内容を録音させていただきますので、あらかじめご了承くださいと思います。</p> <p>それでは、ここからの議事進行は委員長の田村委員にお願いいたします。</p> <p>田村委員よろしくお願いいたします。</p>
<p>委員長 (田村委員)</p>	<p>3 議事</p> <p>それでは、議事を進めてまいりたいと思います。</p> <p>地域包括支援センターより、「議事(1)の事例報告」及び「議事(2)認知症に関する総合相談の状況について」の説明を受けた後に、「議事(3)認知症初期集中支援チームの活動について」において意見交換を行いたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、地域包括支援センターからの説明をお願いします。</p>
<p>地域包括支援センター (湯浅保健師)</p>	<p>【議事(1)の事例報告については、個人情報に関わる内容のため省略】</p>

<p>地域包括支援センター (湯浅保健師)</p>	<p>資料2についてご説明させていただきます。地域包括支援センターを担当するようになりました2016年度から、地域包括支援センターの周知度が上がるにつれて全体に相談件数が上がっており、認知症の相談件数が飛躍的に伸びたというわけではないですが、延べ・実数ともに増加しています。内訳をみますと、最も多いのはサービスや入所につなぐ対応を希望されている場合です。把握からサービス利用や施設入所につなげるまでに、延べ回数として1回から10回の幅があり、実数としては21名、平均としては3.1回となっております。他には地域との連携、これは主に民生委員さんとの連携ですが、8件ほどです。また、ハートランドしぎさんや医大の精神保健福祉士さんとの連携もあり、これについては受診を始める際の支援を依頼したり、受療中の情報提供、退院前のカンファレンスなど関わりの時期はかなり幅広くなっています。3の専門医にかかっている人の割合をご覧くださいと、実数は、専門医受診は12名、受診なしは20名となっておりますが、専門医にかかっている方がさほど多いということではありません。また、全員に専門医受診が必要というわけではないと思いますが、関わっている専門職が増えますので自然に連携が増えたり、町の認知症カフェのお誘いなどの関わりの機会が多くなっているため、実数の割には、専門医に受診されている方へ関わっていく件数が増えています。</p> <p>以上です。</p>
<p>委員長 (田村委員)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>地域包括支援センターから、認知症初期集中支援チームが関わった1事例と、2018年度の認知症に関する総合相談の状況について報告がありました。このことを踏まえて、今後認知症初期集中支援チームがどのような取組みをおこなっていく必要があるのかを検討していきたいと思います。</p> <p>活動のなかで気になられたことや、このような関わりがあったのではないかとといった点についてもご意見があればお話しいただければと思います。いかがでしょうか。</p>
<p><b>【議事(1)の事例報告に関する質疑応答については、個人情報に関わる内容のため省略】</b></p>	
<p>田村委員</p>	<p>(行政の方で)この事例以外で少しひっかかるというケースはないでしょうか？</p>
<p>長寿介護課</p>	<p>今のところありません。だいたい行政でキャッチできるのは、介護認定の申請に来られた時に大変という話を聞いて、介護サービスだけでいけるのかどうか不安な方は地域包括支援センターへつなげ初期集中チームで動いていただくことが多いです。今回のケース</p>

	<p>は直接地域包括支援センターに相談に行かれたケースですが、この1年ではそういったケースは今のところ把握していません。ただ、保健センターの方には精神疾患の疑いの相談を何件か受けているとは聞いています。</p>
野村委員	<p>そうですね。保健センターには、認知症なのか精神障害なのか被害妄想なのか区別が難しいのですが、年齢も若い方から介護認定に届くような方であったり、家族からの相談であったり、本人からの相談があったりということが時々あります。話を聞いて、こちらで保健所などのどこか適切な機関へつなぐことができればよいのですがなかなか難しいです。例えばご近所トラブルでそのことによって被害妄想が強くなってという話であれば保健センターでは対応できる内容ではなくなってくるので、そういったことを伝えると、「もうどこに行っても相談できへん」といって帰って行かれる場合もあります。実際そういう被害妄想的な相談はちょこちょこあります。</p>
青川委員	<p>いくつかの町で、初期集中で関わらせていただいておりますが、チームとして動くという事例というのは、なにかしら解決が難しいというケースです。結局様子を見て、介入がなかなか進まないということが多いです。ぽんぽんと進んでいくものは、行政や包括で動いてつなげてくださっているもので、初期集中でいろんな人が関わってああでもないこうでもないといった事例はやはりこのように少し時間を要するケースです。どの町でも1年間で1から2の事例に対して動いている現状です。そのあたりは仕方ないのではないのかなという印象を受けています。</p>
地域包括支援センター (湯浅保健師)	<p>なかなか専門医への受診となってくると拒否感が強いという方が多いです。例えば、A病院への受診を勧めていたケースですが、A病院に身内の方が働いているということでしたので、その方に会いに行くというお芝居で本人を連れて行く段取りをしました。病院の精神科受診の準備も整っていたのですが、騙していくのに忍びないと思った夫が本人に話してしまい、行けなくなってしまったということがありました。いろいろな人が準備してくれているとわかっていても、(受診が)嫌な人な人は嫌なのだなと思いました。ご主人も帰ってから奥様に責められるのがつらいと思われたのかもしれない。</p> <p>このように、受診につなげるのが難しい場合がありました。</p>

委員長  
(田村委員)

他にご意見等がないようでしたら、最後に私の方から少しお話をさせていただきます。

湯浅委員からお話があったとおり、受診が決まっても家族が本人に伝えてしまったことで受診につながらなかったというケースは私どもの病院でもありました。受診のタイミングというのは厳しい話ですが、ご本人が混乱しているというだけではなく、ご家族がもう限界だという段階が受診のタイミングであるというケースもけっこうあります。認知症の初期集中支援の第1回目では、サポートする娘さんが「もう限界です」「今まで周囲の目が合ったので我慢してきた」「そういう目で見られるのが忍びないし恥ずかしいところがある」ということで、ご家族だけで頑張っていたらっしゃいましたがご本人の徘徊が始まってしまったことで、助けてくださいとおっしゃられて受診につながりました。

昨年もお話したかもしれませんが、この病気の難しいところは、ご本人の病気に対する困りごとだけではなく、サポートするご家族の困り感というものも一緒に考えないといけないことです。ご本人の受診につなげていくのには、まずはご家族との信頼関係を構築していけないといけないと感じております。

ご家族の困り感という話になりましたが、やはり同居している家族は割と詳細にとらえてお話をしてくれるケースがあります。たまにしかお顔をみないご家族は、実は些細な変化に気づかなくて、冷蔵庫の中にいつも同じものが入っている、賞味期限の切れたものがたくさん入っている、お風呂も毎日入っていないといったところも、一緒に生活していないがゆえに把握できない。それで受診が遅れてしまう、いやまだ私たち家族からみれば大丈夫ですといったこともあります。実際、こういったサポートの場に携わらせていただく立場の人間としては、お話を聞くときに、より具体的に話をきくということをするれば実は情報を得られるといったケースもあり、ただ単に物忘れ、道に迷っていませんか、同じことを何度もきくことはありませんか、忘れっぽくなっていませんかといったこと、もちろんそういったことがあれば認知症のサインではないかなと疑うことも大切ですが、より一歩突っ込んだところで、先ほど申し上げましたお買い物に行っても同じものを買ってくる、食べ物を腐らせてしまって、重ね着をしてしまって、裾のところが汚れてしまっている、お料理の味付けがすごく濃くなっている、薄くなっているといったこと。認知機能の低下というのは物忘れだけではなく、嗅覚や味覚もダメージを受けるといったこともあるので、携わる方々でお話をする機会があるのであればそういった面でより踏み込んで具体的なことも聞いていただければひよっとしたら受診のとっかかり、認

	<p>知症、認知機能の低下の始まりになっているのではないかとというサインとして感じ取ることができやすくなるのではないかと感じました。漠然と認知機能の低下、認知症ということばがひとり歩きすることもあります。先ほどお話したように一歩踏み込んだ生活に根差した具体的なところを聴いていただければまたお困りになられたときに、ご家族やご本人が相談に来られたときにこういう風な生活に根差したところで問題があり今それがもっと具現化・可視化した形でお見えになられたということが説明でき、今後バックアップする際に対応しやすくなるかと思えます。サポートする側も判断しやすくなると思えます。そのあたりのことに気をつけていただきながら対応していただければと感じました。</p> <p>私の方からは以上です。</p> <p>以上をもちまして、本日の会議の議事については、皆様のご協力により全て終了いたしました。</p> <p>ありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、令和元年度第1回認知症初期集中支援チーム検討委員会を終了いたします。</p> <p>なお、事例報告の資料1につきましては個人情報取扱となりますので、回収させていただきます。持ち帰らずにそのまま机の上に置いておいていただければと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、また、田村先生、ご貴重な意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>検討委員会につきましては、年1回もしくは2回を予定しております。</p> <p>年度内に事例があり、検討委員会の必要が生じた場合に開催する可能性もありますので、その際にはどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>